

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第52週の発生動向

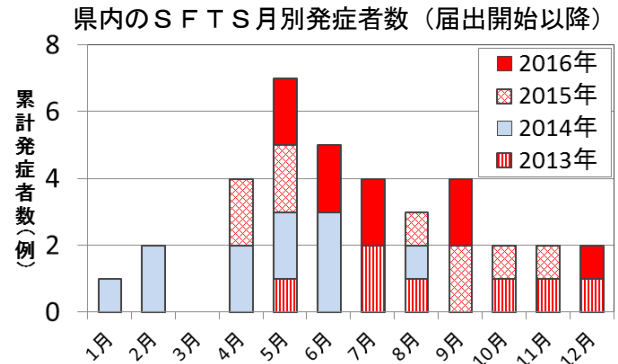
トピックス

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

(全数報告の感染症) の報告が延岡保健所から1例あった。県内での報告は今年9例目で、累計36例(平成25年3月届出開始以降)となった。患者は80歳代男性で、発症は12月下旬であった。ダニの刺し口は無く、海外渡航歴はなかった。

県内のSFTS年齢別報告数(届出開始以降)

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	11	10	10	1



全数報告の感染症(52週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症: 報告なし。2類感染症: 結核3例。3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症1例。
- 4類感染症: つつが虫病2例、重症熱性血小板減少症候群1例。5類感染症: 破傷風1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	女	無症状病原体保有者	—
		日向	70歳代	男	肺結核及び粟粒結核	咳、痰、発熱
		日向	20歳代	男	無症状病原体保有者	—
3類	腸管出血性大腸菌感染症	高鍋	50歳代	女	—	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、O26(VT1産生)
4類	重症熱性血小板減少症候群	延岡	80歳代	男	—	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹
	つつが虫病	宮崎市	80歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
		都城	50歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
5類	破傷風	宮崎市	60歳代	女	—	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、咽頭部の易刺激性 ワクチン接種歴: 不明

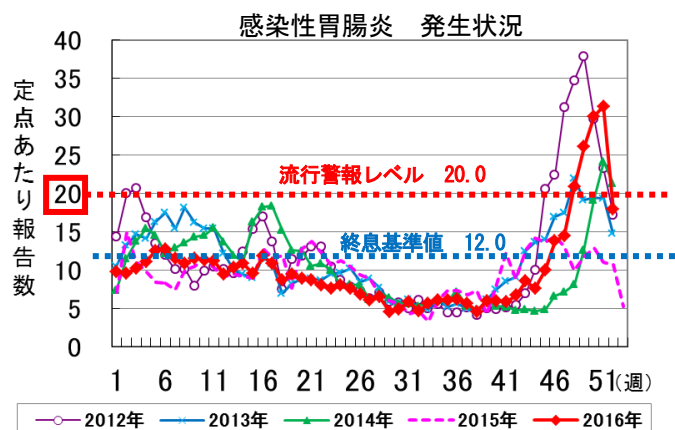
定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,237人(定点当たり32.9)で、前週比66%と減少した(年末年始含む)。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

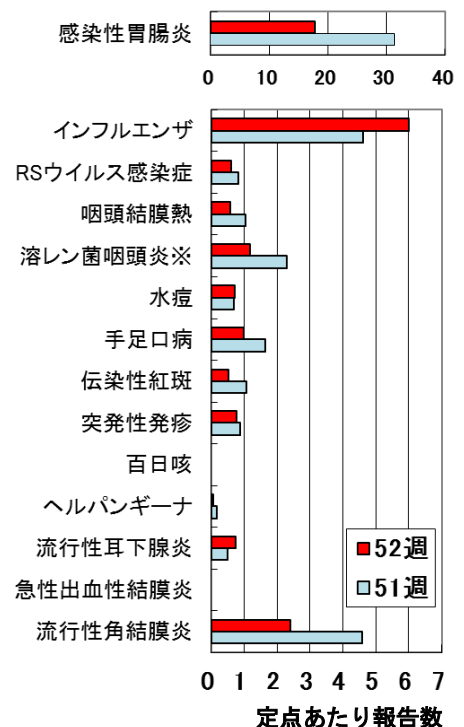
★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【感染性胃腸炎】

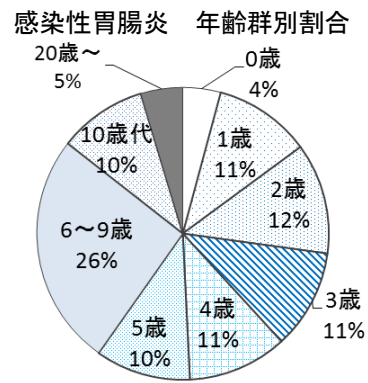
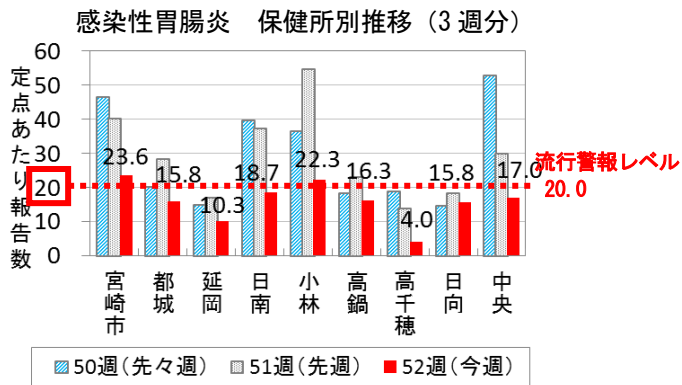
報告数は644人(17.9)で、前週比57%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(14.9)の約1.2倍であった。宮崎市(23.6)、小林(22.3)、日南(18.7)保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。



【前週との比較】



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



【インフルエンザ】

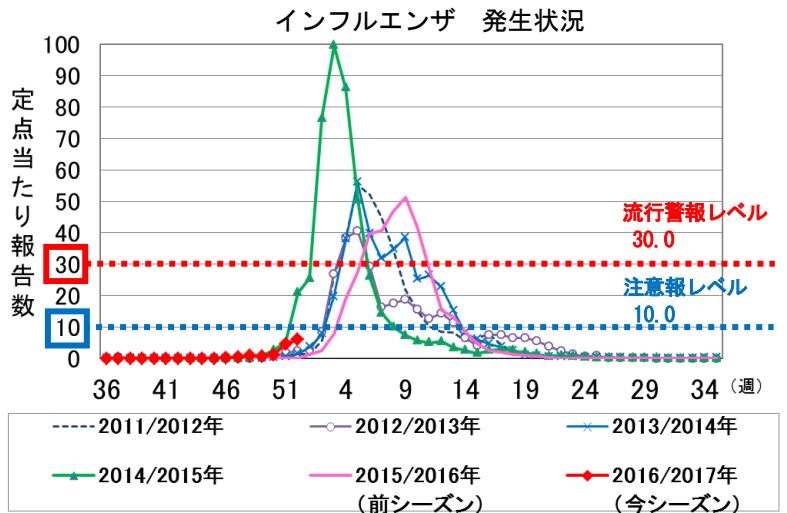
報告数は354人(6.0)で、前週比130%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(4.6)の約1.3倍であった。都城(16.6)、高鍋(6.8)、小林(6.4)保健所からの報告が多く、年齢別は10～14歳が全体の約2割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎:

宮崎市(2例)、日向(1例)保健所から報告があった。0～4歳、5～9歳、10歳代が各1例ずつであった。



★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	感染性胃腸炎(23.6)
都城	インフルエンザ(16.6)
延岡	なし
日南	なし
小林	感染性胃腸炎(22.3)
高鍋	なし
高千穂	流行性耳下腺炎(3.0)
日向	なし
中央	なし

流行警報レベル開始基準値

・感染性胃腸炎(20.0)

流行注意報レベル基準値

・インフルエンザ(10.0)

・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年1月4日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella Corvallis (O8:z4,z23:-)	5～9歳	男	2016.12.21	-	便	2016.12.28

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ノロウイルスGⅡ	0～4歳	男	2016.12.10	感染性胃腸炎、胃腸炎(下痢)	便	2016.12.27
エコーウイルス6型	0～4歳	女	2016.11.15	下肢痛、歩行障害、発熱、熱性けいれん、関節痛、筋肉痛、尿路感染	便	2016.12.28
コクサッキーウイルスA6型	5～9歳	女	2016.10.25	手足口病、39.6℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.12.28

○感染性胃腸炎と診断された乳児 1 名からノロウイルス GⅡが検出された。ノロウイルスは手や食品などを介して、経口で感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こす。ノロウイルスの増殖はヒトの小腸上皮細胞内で行われる。嘔吐症状が強いときには、小腸の内容物とともにウイルスが逆流するため、嘔吐物中にも大量のウイルスが存在し、嘔吐物も便と同様に感染源となりうる。そのため、その処理には十分注意する必要がある。

○幼児 1 名からエコーウイルス 6 型が分離された。昨年、無菌性髄膜炎の患者から検出されたウイルスは、全国的にコクサッキーウイルス B5 型に次いでエコーウイルス 6 型が多かった。今年もエコーウイルス 6 型による無菌性髄膜炎が流行する可能性があるため、今後の動向に注意する必要がある。

🇯🇵 全国 2016 年第 51 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 51 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	327 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	49 例				
4類感染症	E 型肝炎	3 例	A 型肝炎	2 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	つつが虫病	22 例	デング熱	3 例	日本紅斑熱	1 例
	レジオネラ症	23 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	17 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	17 例
	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 例
	後天性免疫不全症候群	13 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	37 例	水痘（入院例）	5 例	梅毒	58 例
	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	麻しん	5 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 97% とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザであった。減少した主な疾患は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎であった。

インフルエンザの報告数は 41,428 人 (8.4) で前週比 167% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (4.7) の約 1.8 倍であった。富山県 (14.3)、群馬県 (14.1)、秋田県 (13.8) からの報告が多く、年齢別では 5~9 歳が全体の約 2 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 54,503 人 (17.3) で前週比 83% と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (12.9) の約 1.3 倍であった。山形県 (33.2)、福井県 (32.7)、宮崎県 (31.3) からの報告が多く、年齢別では 3~5 歳が全体の約 3 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(71 定点医療機関)

2016年 第52週(12月26日～1月1日)

疾病名		第51週	第52週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	273	354	51	166	30	15	32	41	3	12	4
	定点あたり	4.63	6.00	3.19	16.60	4.29	3.00	6.40	6.83	1.50	2.00	2.00
RSウイルス 感染症	報告数	30	22	9	1	2	5	-	2	-	2	1
	定点あたり	0.83	0.61	0.90	0.17	0.50	1.67	0.00	0.50	0.00	0.50	1.00
咽頭結膜熱	報告数	38	21	9	1	3	4	3	-	-	1	-
	定点あたり	1.06	0.58	0.90	0.17	0.75	1.33	1.00	0.00	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	83	43	15	1	2	12	2	7	-	2	2
	定点あたり	2.31	1.19	1.50	0.17	0.50	4.00	0.67	1.75	0.00	0.50	2.00
感染性胃腸炎	報告数	1128	644	236	95	41	56	67	65	4	63	17
	定点あたり	31.33	17.89	23.60	15.83	10.25	18.67	22.33	16.25	4.00	15.75	17.00
水痘	報告数	25	26	4	3	8	3	-	-	1	6	1
	定点あたり	0.69	0.72	0.40	0.50	2.00	1.00	0.00	0.00	1.00	1.50	1.00
手足口病	報告数	59	36	9	3	4	12	2	5	-	-	1
	定点あたり	1.64	1.00	0.90	0.50	1.00	4.00	0.67	1.25	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	39	19	7	-	1	2	2	-	-	7	-
	定点あたり	1.08	0.53	0.70	0.00	0.25	0.67	0.67	0.00	0.00	1.75	0.00
突発性発しん	報告数	32	28	11	3	5	3	1	2	-	2	1
	定点あたり	0.89	0.78	1.10	0.50	1.25	1.00	0.33	0.50	0.00	0.50	1.00
百日咳	報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	6	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.17	0.06	0.00	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	18	27	7	9	2	-	1	3	3	2	-
	定点あたり	0.50	0.75	0.70	1.50	0.50	0.00	0.33	0.75	3.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	報告数	23	12	12	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	4.60	2.40	6.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
細菌性髄膜炎	報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ 肺炎	報告数	-	3	2	-	-	-	-	-	-	1	-
	定点あたり	0.00	0.43	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
クラミジア肺炎	報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～52週)

2類感染症	結核	209例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	16例(1)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	9例(1)
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	51例(2)	デング熱	1例
	日本紅斑熱	6例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	14例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	10例
	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例
	後天性免疫不全症候群	6例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	8例
	水痘(入院例)	3例	梅毒	9例	播種性クリプトコックス症	5例
	破傷風	3例(1)	風しん	1例		

()内は今週届出分、再掲